

開講期	2026年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	1104 反発達論			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	金曜3限				
教室	J102教室				
代表教員	上野 俊哉				
担当教員	上野 俊哉				
テーマと到達目標	かつて和光大学の人間関係学科には、かならず「反発達論」という講義が開かれていた。その内容は、学生にも教員にも一種の「常識」「教養」として共有されていた。もう一度、忘れられた「反発達論」の可能性を検討する。				
概要	人間は成長も発達もしない。そんなものは近代以降のフィクション、幻想にすぎない。「すこやかな成長」とかいう大人や教師、学校を疑ってみよう。「子ども」概念なしに生きていける社会を求めて勉強しよう。担当教員はこうした視角を、数学者、民間教育運動家の遠山啓から直接に学んだので、そうした遺産を伝えたい。教員になりたい人ほど、「反発達論」を知るべきだ。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員(複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	反発達論が必要な理由				対面授業
第2回	「子ども」「児童」・・・という括りの歴史性について				対面授業
第3回	「反発達論」の系譜 通過儀礼や祝祭(祭)が人間にもつ意味				対面授業
第4回	イリイチ1 「脱学校の社会」				対面授業
第5回	イリイチ2 脱専門化と楽しい社会				対面授業
第6回	イリイチ3 土着の文化を学びにいかす、ヴァナキュラーと共生				対面授業
第7回	フレイレ1 銀行型と自律対話型、二つの学び				対面授業
第8回	フレイレ2 ラテンアメリカの学びと合意のデザインと多元宇宙				対面授業
第9回	フレイレ3 専門領域から学び逸れて、笑いとぼそう				対面授業
第10回	フレネ教育1 子どもの自発性をどう概念化するか?				対面授業
第11回	フレネ教育2 自発的なメディアをつくる				対面授業
第12回	フレネ教育3 地図、図表、メモの持つ力				対面授業
第13回	ドゥルニー、自閉症児たちと暮らす。発達も成長も拒む学びの地図をつくる				対面授業
第14回	イリイチ、フレイレ、フレネ、ドゥルニーからフェリックス・ガタリが受け取ったもの				対面授業
第15回	「反発達」と「脱成長」、遠山啓は「障害児教育」に何をみいだしたのか?				対面授業
成績評価の基準	学校ではなく、大学なので出席は一切とらない。出席点が欲しければ、発言すればいい。講義中にふれた著作、論文などを読み、それらの概念や方法を使って、自分で問いを立てて書くこと。2800字以上。自分がなぜそう考えるかを、理由や論拠を他から(人や本、出来事など)例にとって引くことで考えていることを言葉にしてみる。感想のみは不可となる。レポートは「である、だ」調で書くこと。「ですます」調は不可。				
履修にあたっての留意事項	大学での学びにコスパやタイパを求める人には向いていません。学生をお客さまや消費者と思ったことはないし、これからもありません。単に学び逸れる大人の一人としてあつきます。今は活字や本が嫌いでも、これから本を読むことがすきになりたい人に向いています。授業公開の制度には一歳エントリーしない。理由は大学の講義にニセ学生がいるのは当たり前のことだから。和光の教職員は授業公開の制度、仕組みに関わりなく、いつでもわたしの講義を聞いてもらってかまわない。ただし、参加する場合、一声かけていただく。関係性(ラポール)はあらかじめ、そちらからアプローチして築いていただく。				
オンライン授業方式(同時双方向)					

型・オンデマンド型)の詳細	
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件	

◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用			
教科書		教科書(ISBN)	
参考文献		参考文献(ISBN)	膨大にあるので、そのつと紹介する。

◆合理的配慮

<p>本学における修学支援基本方針について</p>	<p>本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること</p>
---------------------------	---